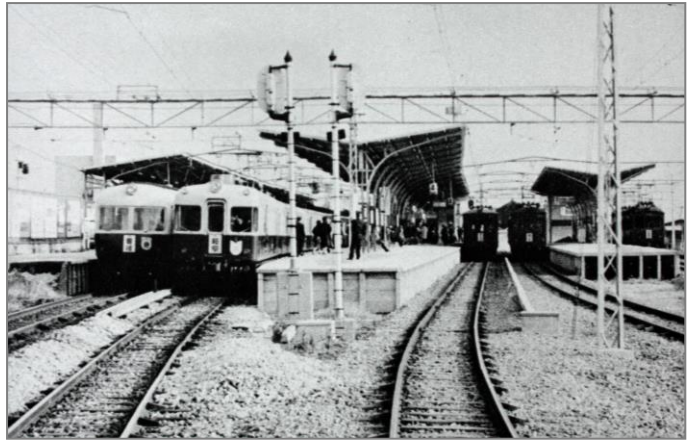


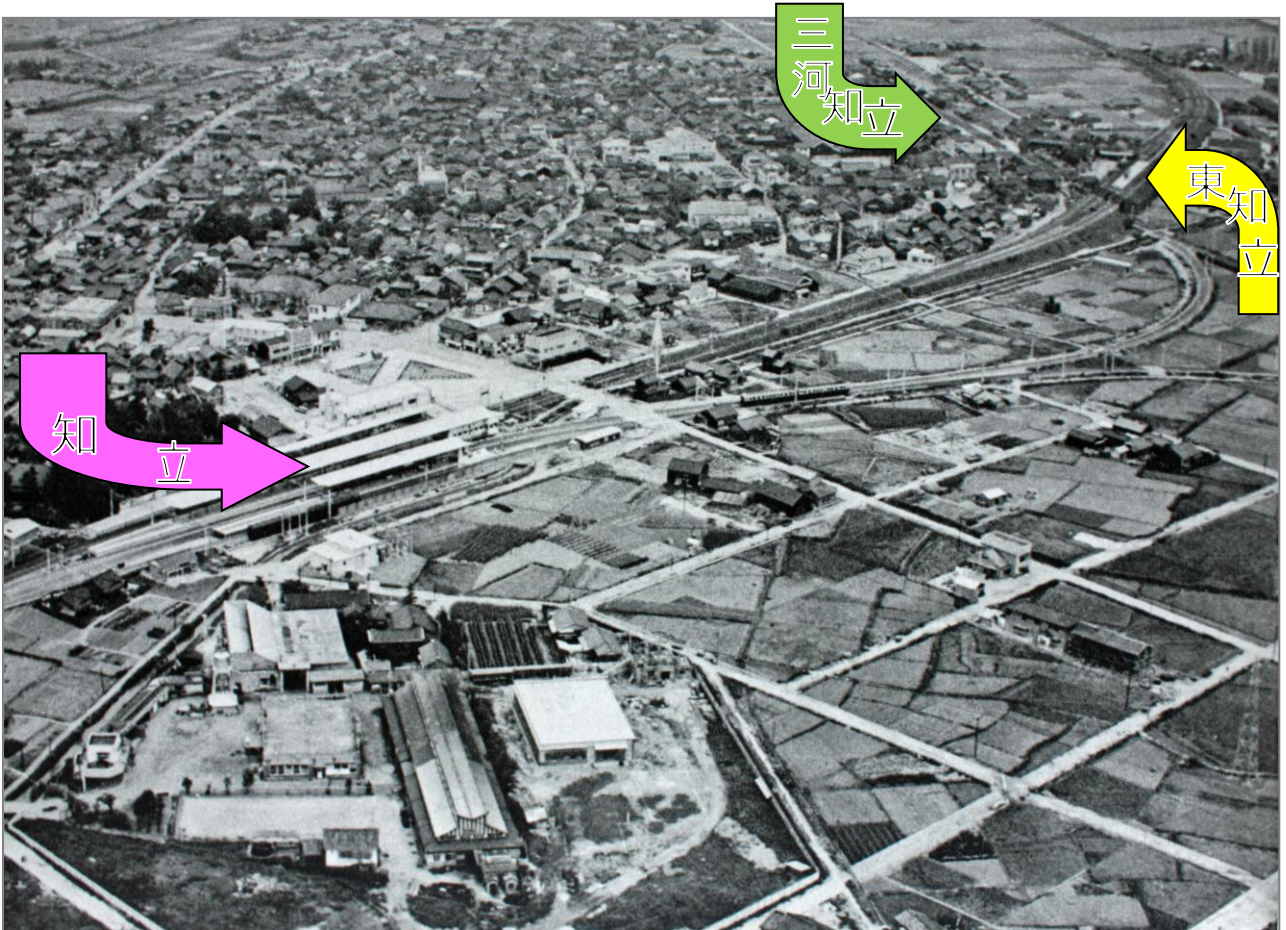
知立駅移設

昭和34年4月1日



三河線と名古屋本線との直通列車は昭和 25 年 9 月 17 日、知立連絡線経由で開始されたが、昭和 34 年 4 月 1 日、旧知立(現・三河知立) の名古屋方 0.7km に知立駅を移設してルートを変更。直通運転を更に容易にし、かつ、乗換えがスムーズにできるよう改良された。

※ 現在、三河線はワンマン化に整備された専用車両のため直通営業列車はゼロである。



冷暖房車登場

3780形

昭和41年12月25日

三河線・挙母線に待望の冷暖房車登場



トヨタ自動車前(右が3780形)



挙母線・矢作川橋梁

名鉄では、昭和34年4月1日、5500形が日本で初めて通勤輸送に冷房車を使用し脚光を浴びていたが、支線では昭和41年12月25日のダイヤ改正で3780形が冷暖房車として登場した。勿論、三河線・挙母線にも入線し旅客に大好評でした。



7300形

昭和46年12月27日のダイヤ改正から当初支線用特急として登場し、三河線などで使用開始された。



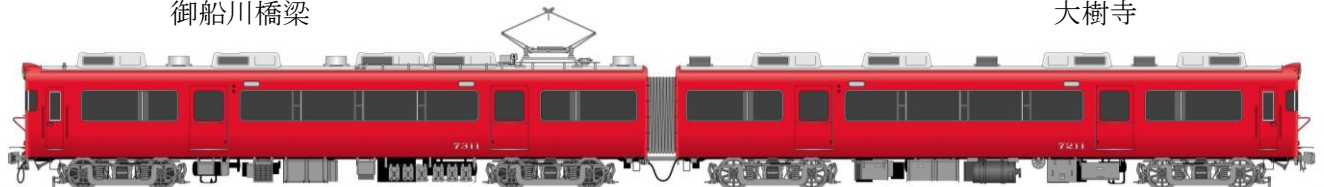
御船川橋梁



上挙母



大樹寺



自然災害の爪痕

台風13号

昭和28年9月25日

一色町(現・西尾市一色町)の堤防(外堤防…41箇所、中堤防 12箇所)は 53箇所が決壊。吉田町(現・西尾市吉良町)の堤防も 74箇所決壊。



三河吉田



矢作古川右岸・堤防応急復旧工事



三河一色



西尾線三河吉田2号踏切



松木島上り場内信号機(腕木式)倒壊

台風13号の被害で、松木島～三河吉田(現・吉良吉田)間は昭和28年11月14日まで運転休止した。



貨物専用線

玉津浦付近(旅客・貨物ホームがくっきり)



三河吉田～矢作古川間



写真の右側一帯は旧一色町立一色中学校

伊勢湾(15号)台風

昭和34年9月26日



松木島～三河吉田間



上…中畑ホーム崩壊

台風で奥田新田堤防が決壊し、三河平坂～三河旭間は干潮時は運転し、満潮時は、運転休止が40数日間続く。



三河一色～西一色間



三河一色～西一色間…上2枚→補強された一色排水路の橋脚 左側の写真では右側の橋脚

左…玉津浦～碧南間 下…棚尾～玉津浦間





上及び右…玉津浦～碧南間(第1堀川橋梁)



新川町・臨港線(新川口)に乗り上げた船



刈谷工場横



重原～知立間 知立第1場内信号機付近

S47.7の集中豪雨

昭和47年7月9日、夕方から降り出した雨は12日夜半から一層激しさを増した。その上、台風6号と重なり未曾有の豪雨をもたらした。この

影響で足助・小原など三河の山間部は陸の孤島となり、猿投～西中金間も各所で線路が土砂で埋没したり道床が流出したり陥没した。また、挙母線の矢作川橋梁も痛手を受けた。この影響で猿投以遠及び挙母線のトヨタ自動車前以遠は、13日初列車から約1か月間運休した。



上2枚…広瀬トンネル

下2枚…力石トンネル





カ石トンネル



上及び左下…三河広瀬～西中金間

広瀬トンネル～カ石トンネル間



下…挙母線の矢作川橋梁



矢作川の橋梁は、この豪雨で痛手を負い、速度規制を廃線前日(昭和48年3月3日)まで、15km/hの制限を受け運転していた。

廃線区間の駅舎

海線

三河吉田 → 吉良吉田



三河吉田(現・吉良吉田)…昭和 49 年頃

開業…昭和 3 年 8 月 25 日

昭和 18 年 2 月 1 日 旧西尾鉄道の吉良吉田駅を南へ 0.2km、三河線の三河吉田駅を東へ 0.2km 移設して両駅が統合し、三河吉田駅に。35 年 11 月 1 日に「吉良吉田駅」と駅名改称



平成 12 年 11 月頃



昭和 60 年頃

神谷 → 松木島



開業時、先代の神谷傳兵衛の姓をとって「神谷駅」として開業。駅舎内は駅長室と貴賓室があり、貴賓室にはレットカーペットが敷かれ豪華な応接セットがあったという。

昭和 24 年 12 月 1 日、松木島駅と駅名改称。昭和 53 年 9 月に駅舎撤去。

下…駅舎改札口前のコンクリー
跡は今でもくっきりと…

平成 24 年 10 月



三河一色



駅舎撤去は廃線後…平成 20 年 6 月

戦前は「いしき」でなく「いっしき」であった証し。呼称方の変更年月日不明。



味浜 → 西一色



味浜駅として開業。昭和 2 年 10 月 25 日
西一色駅と駅名改称

駅舎撤去…昭和 61 年

寺津



駅舎撤去…昭和 45 年

北寺津



昭和 2 年 7 月 25 日開業 19 年
休止、昭和 44 年 4 月 5 日廃止

三河楠



駅舎撤去…昭和 33 年頃
上屋撤去は平成 17 年

三河平坂



駅舎撤去は廃線後…平成 18 年 6 月

中畑



ホーム&上屋撤去…平成 17 年 7 月



駅舎撤去…昭和 41 年以降

玉津浦



駅舎撤去…昭和 42 年

昭和 34 年 12 月 3 日、タブレット
閉塞器撤去

三河旭



駅舎撤去…昭和 44・45 年頃

棚尾



駅舎撤去は昭和 41・42 年頃
上屋撤去は平成 17 年頃

山線

猿投



現駅舎・平成5年9月1日完成



平成5年に解体されたとき、発見された駅舎棟札から昭和7年11月6日、井上徳三郎が寄贈した証しが…。



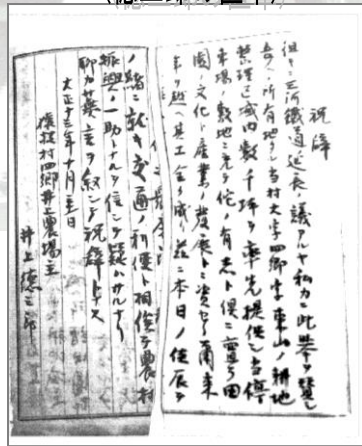
井上徳三郎氏から

猿投構内の土地6000坪&駅舎の寄贈

猿投駅開業の祝辞 (徳三郎の直筆)



井上徳三郎



昭和47年頃(平成5年解体された駅舎)

井郷の史跡・名所

頌徳碑と井上の地名

(井上町11丁目)

頌徳碑は故井上徳三郎氏の偉業を讃え、大正15年、当時の猿投村が建立した石碑である。碑の表面には「井上真河翁頌徳の碑」と刻まれている。真河は氏の号であり、頌徳は徳をほめ讃える言葉であって、これは当時の県知事の書を彫り刻んだものである。又裏面には当時の県農会長による、井上翁を讃えた碑文がある。井上翁は現在の井上の広い原野を開拓し、猿投農学校や猿投駅の土地を寄贈する等の功績を残された方である。昭和11年には、それまで大字四脚字東山を、字井上に改称した。
[21年度わくわく事業] 井上町自治区 井郷まづくりの会



井上徳三郎の碑

三河御船



駅舎撤去…昭和41年

枝下



平成10年5月



引込み線(三星粘土→現・東海セラミックス)



駅舎撤去…昭和42・43年頃



平成 16 年 7 月 4 日



昭和 58 年頃



平成 23 年 7 月 28 日

三河広瀬



※ 旧三河広瀬・西中金の駅舎及び
プラットフォームが平成 19 年 10
月 2 日…登録有形文化財に。
詳細…100 頁



平成 21 年 4 月 9 日



平成 23 年 5 月 25 日

西中金



昭和 50 年 4 月



昭和 50 年 9 月

駅舎の新築・改良

知立



昭和51年7月



知立駅開業前…昭和34年3月

昭和34年4月1日開業



平成2年5月



平成24年12月20日

重原



平成10年頃



平成18年10月

刈谷



刈谷・左の建物は刈谷乗務区、知立移転後は
貨物乗務員詰所→現・ホテル(名鉄イン刈谷)



手前・刈谷南口駅舎と右奥・刈谷乗務区
昭和 31 年 11 月



平成 10 年 8 月



平成 20 年 12 月 1 日、駅南口のペデストリアンデッキ
「みなくる刈谷ウイングデッキ」が完成、南北自由通路
と接続し使用開始。 平成 21 年 11 月 26 日

刈谷町 → 刈谷市

刈谷市付近高架化(刈谷市～刈谷間複線化)

…昭和 55 年 12 月 14 日



昭和 56 年頃



刈谷町駅として開業。昭和 27 年 3 月 1 日
刈谷市駅に改称 昭和 49 年 4 月